

第7回 開志専門職大学 事業創造学部

教育課程連携協議会 議事録

1. 日 時：2024年3月12日（火）13：00～15：00
 2. 会 場：開志専門職大学 紫竹山キャンパス 7階会議室
（オンラインでの参加者はTeamsにて参加）
 3. 出席者：徳田賢二 委員長、唐木宏一 委員、高野英介 委員、武田修美 委員、田中豊 委員、向正道 委員（五十音順）
事務局：遠田孝之 学務部長 事業創造学部 学務課課長兼社会連携推進課課、阿部朋子
- 欠席者：なし
4. 議 事：

【報告】

- (1)2023年度 教育課程に関する報告【資料2～5】
 - 1) 事業創造学部 学生状況（2023年度3月末時点）
 - 2) 事業創造学部 運営報告（2023年度）
 - 3) 卒業後の進路について（2023年度）
 - 4) 卒業式について（2023年度）
 - 5) 質疑応答
 - (2)2024年度カリキュラム改訂状況報告【資料6～10】
 - 1) カリキュラム改訂ポイントについて
 - 2) 質疑応答
 - (3)2024年度スケジュール案について【資料11～15】
 - (4)質疑応答
5. 議事結果：

【報告】

- (1)2023年度 教育課程に関する報告【資料2～5】
事務局遠田より【資料2～5】について説明がされた。

1) 事業創造学部 学生状況（2023年度3月末時点）
2023年度前期退学は2名だったが、年度末には14名になる予定。休学は10名のうち5名が退学。退学傾向分析は①精神的疾患を持つ学生②学修分野に対するモチベーションの低い学生③対人関係構築が困難な学生が顕著。

①の精神的疾患学生は4月からの合理的配慮が義務化になるため、対応強化。スクールカウンセラーの増員も視野に入れている。

②、③は入学動機が強い学生、本学をよく理解していない学生の入学が多数。モチベーションが低い学生に対しての対応策として、入学前授業を実施（スクーリング2回）、満足度の高い内容となった。基礎ゼミという科目の新設（アカデミックスキル、個々の問題のヒアリング）で退学・休学抑止に取り組むという内容の報告があった。

2) 運営報告【資料3】

資料に基づき、10月以降の内容について説明がなされた。

3) 卒業後の進路について【資料4】

1月31日時点で就職内定率100%を達成できた。就職先は県内外、優良企業にも多数決定。実習先企業にも20.5%お世話になった。慶應義塾大学大学院への進学もあるという内容が報告された。

4) 卒業式について【資料5】

卒業式の案内、会場は新潟テルサで実施の旨が報告された。

5) 質疑応答

(武田委員) 休学について、休学者の復学がかなわなかった、戻れなかった理由。休学の目的について教えて欲しい。

(事務局遠田) 10名のうち5名退学、うち4名が精神的疾患で退学。4名の内でも精神的疾患が解消しているが、就職への進路変更もあった。その他5名は創業休学1、留学1、復学3名。人間関係で1年ずらしたいという学生を含む。

(武田委員) 大学の休学はポジティブなものなのか。

(事務局遠田) ポジティブな見方ができるものもある。創業目的の休学もあり支援を行っている。復学に向けた休学にしていきたい。あわせて、進路が理由となる退学は応援したい。

(田中委員) 定員は320名なので、100名くらい少ない。そこに対する明確な方法論があるか。

(事務局遠田) 入試広報課でもいろいろ行っている。分析も行っている。3月23日のオープンキャンパスは昨年の5倍(2→11名)の動員を見込んでいる。就職実績を謳ったことが高校にヒットした。実績が出たことが大きい。

(田中委員) 東京のニュービジネス協議会でも多くの学生がいる。創業意欲の学生、専門の勉強ができる大学がここにあるという事をアピールできたら良いと思う。

(徳田委員長) 定員未充足の理由については、認知不足、少子化があり、特に高校での認知が進まない。今年度は、これまでに出不願のない高校にも積極的に訪問した。今秋は5~10倍、高校訪問をふやした。

また、起業家教育が高校でも増えてきた。商業高校でアントレプレナー教育のテコ入れが進んでいる。出前授業などで高校との連携を深めることで実践的な大学を知ってもらえる。関連して、学内で行った、オープンゲート新潟では、高校部門を設置、招聘して発表してもらうなどで認知活動を行っている。

対高校生向け、指導教員向けに書籍の作成を進めている。2024年度前期に出版予定。

(向委員) 『17歳で知っておきたい必修ビジネスワード17~開志で学ぶスタートアップの基礎~』という書籍。事業創造の言葉がよくわからないという意見が多くそれについても触れている。6月のオープンキャンパスや学祭に間に合うようにし、大学の認知に活かしていきたい。

(唐木委員) 定員未充足について、適格に対応しているという印象。高校を通じて知ってもらえる方法が重要。高校訪問で、資料を渡し、生徒に渡してもらうのが一番。

また、田中委員の話の通り、多彩なゲストも重要な取り組み。これがすぐに募集に結び付くというものではないが魅力である。

基礎ゼミを必修でやることは、事業創造大学院大学でも以前苦労してやった。最初の半年間単位を付けないでやっている。単位をつけるのは望ましいやり方である。

スクーリングは36名、2回目が17名。2回目が少ない理由は。

(事務局遠田) 初回の36名は年内の合格者、1回目はかなり満足度が高かったため、リピーターはないなと思ったが、2回目はリピーターが13名参加。かなり参加してくれたという印象だった。2回目はリピーター対策も行った。そのことから、学生満足度も高かったと考えられる。

(2) 2024カリキュラム改訂状況について

1) 向委員より【資料7~10】について、カリキュラム改訂ポイントについて説明がなされた。

2) 質疑応答

(唐木委員) 前回までの繰り返しとなるが、旧カリキュラムは必修科目が多すぎたようだ。選択を増やすのは、学生自身の自主性を尊重するためにも良い取り組み。新旧対照表を見ると、一般的な大学に近くなったイメージもある。学生側から見たら、特殊にみえないという点では良いと思う。

細かい内容では、(4) 会計・財務。マーケティング計科目の再構築 (5) 資格系選択科目を配置。重要性があると理解している。

(向委員) 資格は学生からの要望が多いが、講座を開いてもほとんど学生が集まらない。今回はトライアル的要素もあるが、単位を出す授業としている。ITパスポート、簿記、FPなど、学生に人気のある資格を目指せるようにしている。

(唐木委員) 資格系は実績が出ることに期待したい

(徳田委員長) ご指摘、重要と思う。必修科目は柔軟な選択を阻害していた。選択科目は大切。

(3) 2024年度スケジュール案について【資料11～15】

事務局遠田より【資料11～13】について説明がなされた。

【資料14】同窓会会則について、事務局遠田より説明がなされた。

開志専門職大学を卒業したもので組織。事業創造学部・情報学部の7名が役員として選出する。主旨説明は3月15日の卒業式に行う。目的は、会員同士の親睦。就職しても交流を持つ。電子メール等のつながりをつくる。

会費は初期の段階では無料。全員を会員として大きくなった段階で会費導入を考えていきたい。

【資料15】後援会会則について、事務局遠田より説明がなされた。

会員は学生保護者(事業創造3名、情報3名、アニメ・マンガ3名)を中心に活動。学生支援、専律会支援、実習支援の力添えをいただき、年会費2万を考えている。入学式で、趣旨説明を後援会長より説明予定。

6. 資料

- 【資料1】教育課程連携協議会 構成員名簿
- 【資料2】事業創造学部 学生状況(2023)
- 【資料3】2023年度 事業創造学部運営報告
- 【資料4】2024年卒 事業創造学部進路先(20240311時点)
- 【資料5】2023年度 卒業式のご案内
- 【資料6】2022年度 2023年事業創造学部前期 臨地実務実習受入企業一覧
- 【資料7】開志専門職大学カリキュラム変更に伴う2024年度学則変更について
- 【資料8】【新課程】事業創造学部_教育課程の概要_新旧比較対照表
- 【資料9】【両学部】大学学則 新旧比較対照表
- 【資料10】事業創造学部カリキュラム体系図
- 【資料11】2024年度学事暦(案)
- 【資料12】2024年度開志専門職大学 年間予定表(案)
- 【資料13】2024年度事業創造学部キャリアセンター年間スケジュール
- 【資料14】開志専門職大学同窓会会則
- 【資料15】開志専門職大学後援会会則

以上